【別紙様式２】（小学校用）

フロンティアスクール用報告書

都道府県名	広島県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	広島市立温品小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	３	３	３	３	３	３	２	２０	２７
児童数	８４	８１	８８	９９	８２	１００	７	５４１	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

確かな学力を身につけ，主体的に活動する子どもの育成
～算数科を中心にして指導体制・指導方法の工夫改善をめざす～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

１・２・３・４・５・６年生・算数
児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。

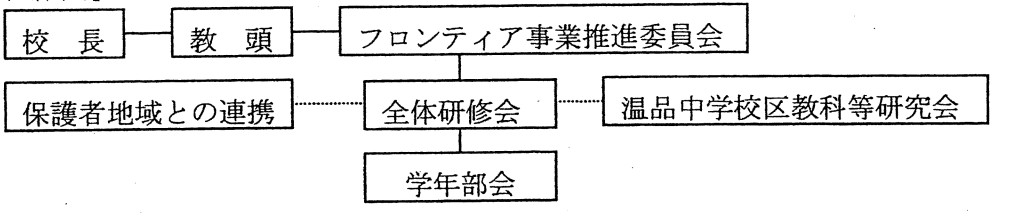
(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 算数科を中心にして，個に応じた指導体制・指導方法を工夫改善することにより，確かな学力を身につけ，主体的に活動する子どもの育成をめざす。 ○　研究の見通し 算数科を中心にして，個に応じた指導体制・指導方法の工夫改善に組織的に取り組むことにより，教員の教育力が向上し，児童一人一人にきめ細やかな指導ができるようになり，確かな学力の定着を図ることができる。 ○　研究の内容・方法 ・個に応じた指導体制・指導方法の工夫改善 ・個に応じた教材の工夫 ・学力評価を生かした指導の改善 以上の３点を研究の柱とした研究計画をフロンティア事業推進委員会で立案し，学年部会ごとに研究・実践を行う。全体研修会の場で，講師招聘をして理論研修を行ったり，各学年の研究授業を行って協議をしたりして，研究を進めていく。

平成16年度	○　テーマ 　算数科を中心にして，個に応じた指導体制・指導方法を工夫改善することにより，確かな学力を身につけ，主体的に活動する子どもの育成をめざす。 ○　研究の見通し 　算数科を中心にして，一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を充実させるとともに，授業の中に問題解決学習を効果的に取り入れることにより，児童一人一人の思考力・表現力の育成を図ることができる。 ○　研究の内容・方法 　・主体的な学習活動へつながる指導方法の工夫 　・基礎･基本の定着を図るための工夫 　・評価を生かした指導の改善 　以上の３点を研究の柱とした研究計画をフロンティア事業推進委員会で立案し，学年部会ごとに研究・実践を行う。全体研修会の場で，講師招聘をして理論研修を行ったり，各学年の研究授業を行って協議をしたりして，研究を進めていく。

(3)　研究推進体制

【組織図】



①　フロンティア事業推進委員会

フロンティア事業推進に関する研究の全体計画案作成，年間授業計画案立案全体研修会の企画と運営，指導方法の工夫改善に関する先進校の取組み等の情報収集，研究紀要の作成など，フロンティア事業に関する研究の原案の作成・研究実践の推進を行う。

メンバーは，校長・教頭・教務主任・フロンティアティーチャー・各学年代表とする。月１回の定例会をもつ。必要に応じて，臨時の推進委員会を行うこともある。

②　全体研修会

研究計画についての討議・全体授業を通しての研究の交流、講師の招聘による研究内容の実践など，校内研究の共通認識の場・研修の充実を図る場として運営していく。

③　学年部会

学年会等で話し合い実践したものを、全体研修会へ提案し研究を深める。専科・少人数加配教員は，担当学年に入る。養護教員は，障害児学級部会に入る。

④　温品中学校区教科等研究会

教科等のチームごとに小・中学校が連携して，研究会をもち，研修を深める。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

（１）個に応じた指導体制・指導方法の工夫改善について

> ◎児童の実態に応じた可変的な学習集団による指導体制を工夫改善することにより，個に応じたきめ細やかな指導ができるようになり，児童の算数科における技能，知識・理解の力が向上した。

① 児童の実態に応じた可変的な学習集団による指導体制づくりの研究

学年	学年母体	学級母体
6 年	○習熟度別コース学習指導	○1クラス２展開少人数指導
5 年		
4 年	○ ３クラス４展開均等割少人数指導	
3 年		○1クラス複数教員による指導（Ｔ・Ｔによる指導）
2 年		
1 年	○課題別コース学習指導	○学級内での個に応じた指導

３年生以上の算数では，３クラス４展開均等割少人数指導を中心に，児童の実態に応じて，習熟度別コース学習指導や課題別コース学習指導などの学年母体の指導体制を多く取り入れた。また，児童の実態や学習内容により，１クラス２展開少人数指導や１クラス複数教員による指導などの学級母体の指導体制も取り入れた。

３クラス４展開均等割や１クラス２展開の少人数指導では，人数が少ないので，児童の理解度を的確に把握して対応できた。そのことで，児童に「わかる」「できる」という喜びや達成感を味わわせることができた。

１，２年生では，Ｔ・Ｔによる指導など学級母体を中心とした指導体制にし，児童の実態により，習熟度別コース学習や課題別コース学習などの学年母体の指導も取り入れた。

２年生の複数教員による指導では，２人の教員が授業後，児童の様子を話し合うことで，理解の状況の把握が的確にでき，それを次の授業に生かすことができた。

学年が上がるほど，既習事項の習熟度に差が大きくなるので，習熟度別コース学習指導を多く取り入れると，効果があがることがわかった。

② 習熟度別学習の研究

どの単元のどこでどのような習熟度別学習を取り入れるのが効果的であるかを研究し，本校における習熟度別学習の流れを作成した。

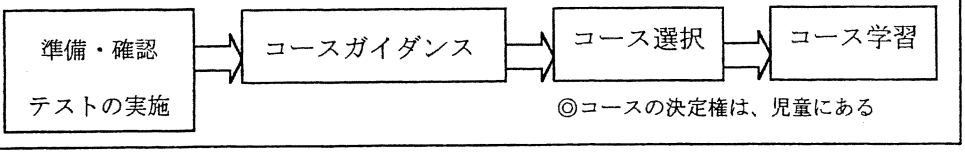
コース学習の設定の基準

- ○　知識・理解，技能習熟度重視コース設定
- ○　思考過程重視コース設定
- ○　興味・関心重視コース設定

コース学習の設定の時期

単元のはじめから
単元の途中から
単元の終わり

習熟度別学習の流れ。

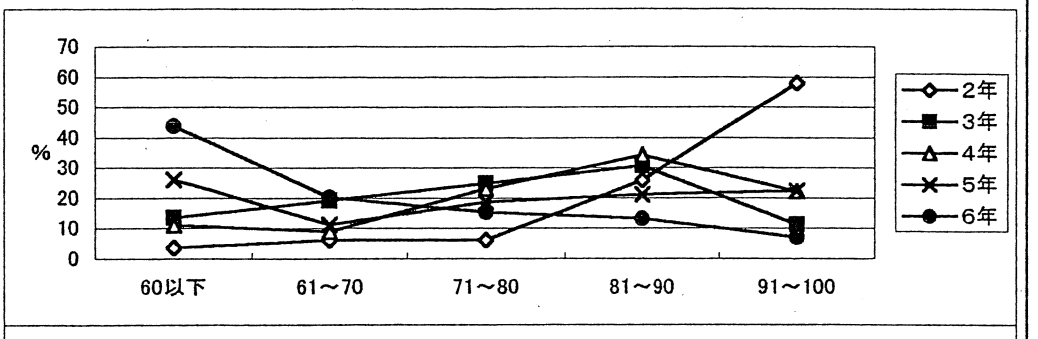


◎コースの決定権は、児童にある

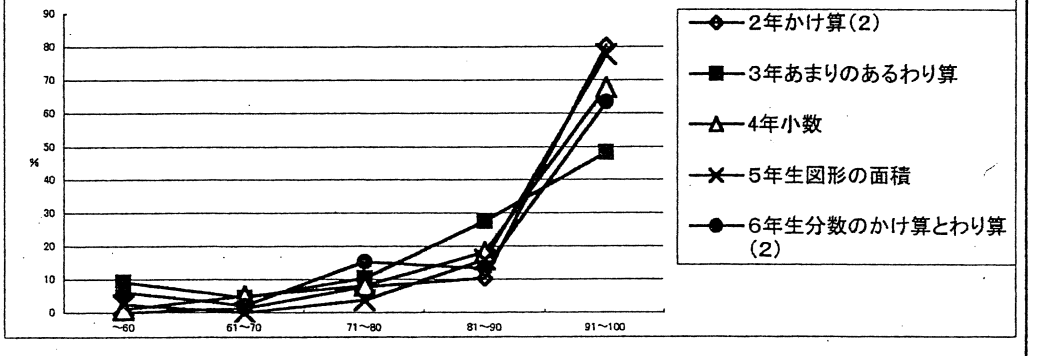
③児童の変容より

○　児童の算数の技能，知識・理解の力がのびた。

４月ＣＲＴ検査の各学年別得点率分布図

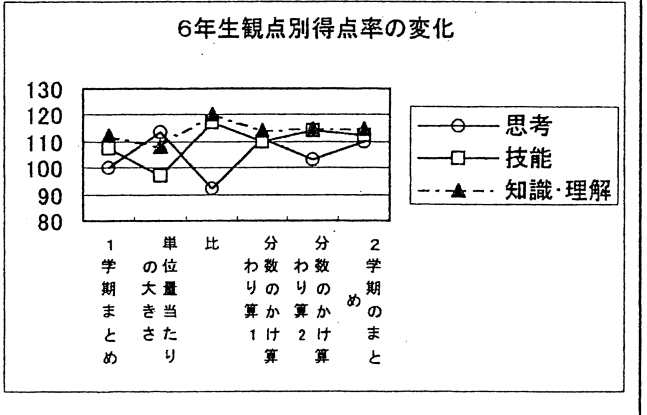


１２月単元テストの各学年別得点率分布図

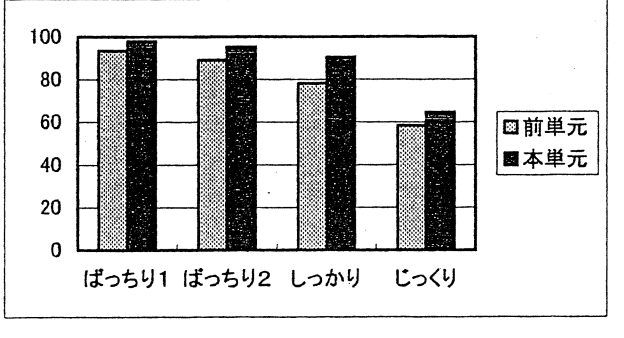


２つのテストの得点分布図を比較すると，１２月の単元テストでは，どの学年も高い通過率の児童の人数が増えてきているのがわかる。

右のグラフは，６年生の単元テストの観点別得点率の変化を表したものである。いずれも全国平均を１００として得点率をあらわした。このグラフを見ると，いずれの単元でも，知識・理解，技能の観点では高い得点率で推移していることがわかる。



６年生「分数のかけ算とわり算(1)」と「分数のかけ算とわり算(2)」での得点率の変化

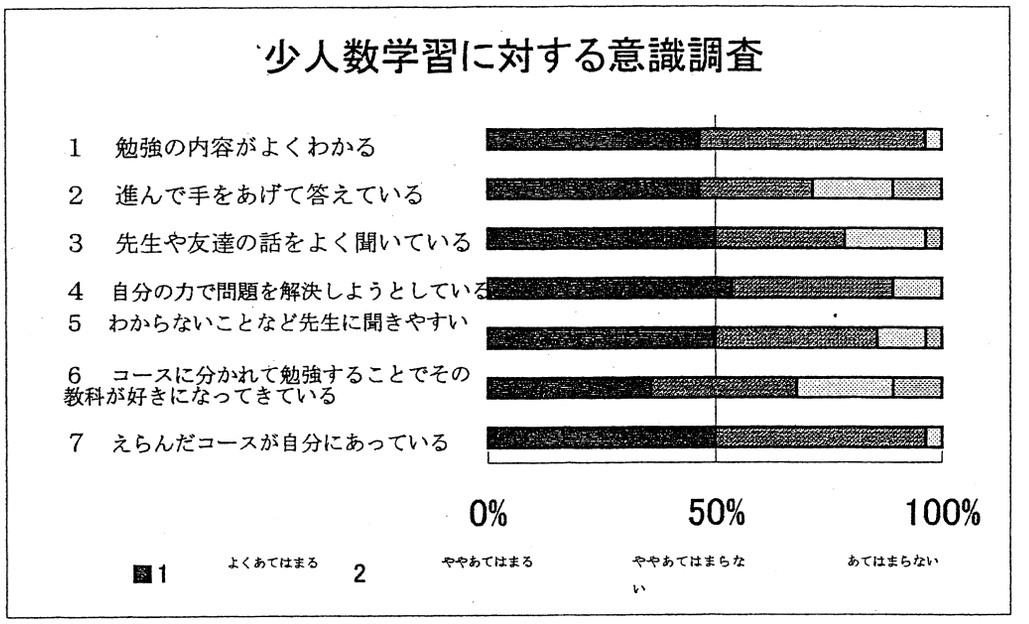


左のグラフは，６年生の習熟度別コース学習をした前後のコースごとの平均得点率の変化をあらわしたものである。

どのコースも，平均得点率が高くなっていることがわかる。

○　自分にあったコースを選んだり，自分から問題を考えてみようとしたりする児童がふえてきた。

以下のグラフは，２学期に３年から６年生までの１６０名の児童に実施した少人数指導に対する意識調査をまとめたものである。



このグラフから，「自分の力で問題を解決しようとしている」や「えらんだコースが自分にあっている」等の項目で肯定的な回答をしている児童が多いことがわかる。

（２）個に応じた教材の工夫について

○習熟度別学習の際に，習熟度別プリントや理解度に応じた教材を工夫し，個に応じた指導ができた。

①　習熟度別学習のための教材開発
　○裏表プリントで１枚に印刷した習熟度別プリント
　○児童の興味・関心を引き出す課題設定の工夫

②　繰り返し学習のための教材開発
　○朝学習のためのプリント作成
　○授業はじめの２分テスト

（３）学力評価を生かした指導の改善について

○ＣＲＴ検査や準備・確認テストを実施して児童の実態を把握し，単元の指導体制を計画するのに役立てることができた。

①形成的評価の工夫
　○準備や確認テスト等を実施して，次の指導に生かした。
　○授業中に肯定的評価に心がけ，児童の学習意欲を高めることができた。
②自己評価の活用
　○学習のまとめを書くことで，知識･理解の定着を図ることができた。

2．今後の課題

（1）個に応じた指導体制・指導方法の工夫改善について

・それぞれの指導体制のよさを生かし，どの単元のどこで，どのような指導体制をとるのが，より効果的であるのかを綿密に計画し，見通しをもった実践をしていく必要がある。また，学年担当の教員同士の打ち合わせや児童の実態を交流していくための時間を確保していく工夫が必要である。

・児童の考える力や表現力を育成するために，効果的に問題解決学習を取り入れるなど，さらに指導方法の研究を進めいていく必要がある。

・学習集団の編成方法等について，今後も，保護者の理解を得る努力を続ける必要がある。

（2）個に応じた教材の開発について

・児童の興味関心を引き出すような教材を開発していく必要がある。

・一人一人の児童が自分の伸びを実感できるようなワークシートや朝学習のプリントの工夫をする必要がある。

・発展的な教材の工夫をする必要がある。

（3）学力評価を生かした指導の改善について

・授業中におけるより効果的な評価方法を開発していく必要がある。

（4）研究推進組織について

・全員が研究しやすい推進組織のありかたを工夫していかなければならない。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

（1）ＣＲＴ検査

実施時期　４月
実施学年　２～６学年
目　的　児童一人一人の算数についての学力の定着状況を把握するとともに学年全体の傾向を把握するため

（2）意識調査

実施時期　４月　１１月　２月
実施学年　１～６学年
目　的　児童一人一人の算数の学習に対する意識の変容を把握するとともに学年全体の傾向を把握するため

（3）単元ごとのテスト

実施時期　単元のはじめ・終わり
実施学年　１～６学年
目　的　児童一人一人の学習の定着状況を図るため

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

（１）研究会、説明会等の開催実績及び開催予定

平成15年９月９日	福岡県学校視察団来校 授業公開・フロンティアスクールとしての取組説明
平成15年11月20日	温品中学校区教科等研究会・地域公開授業 授業公開・協議会
平成15年12月１日	佐賀市教頭会視察団来校 授業公開・フロンティアスクールとしての取組説明
平成16年１月14日	広島市地区協議会 東区・南区・安芸区の小中学校の学校代表参加 授業公開・フロンティアスクールとしての研究発表
平成16年11月26日	教育研究会開催予定 授業公開・フロンティアスクールとしての研究発表

（２）研究成果普及のためのＨＰ作成

学校ＨＰに，フロンティアのページをつくり、各学年の授業研究や研究の成果等について，随時公開している。

（３）フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績予定

平成16年2月23日	広島市小中学校教務主任連絡協議会 取組発表

次

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級　□１３～１８学級　☑１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　☑少人数指導　☑Ｔ．Ｔによる指導　□一部教科担任制　□その他

【研究教科】　□国語　□社会　☑算数　□理科　□生活　□音楽　□図画工作　□家庭　□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑有　□無